

「クルマの使い方を考える」ところからはじめる地球温暖化対策

私たちは日常の様々な場面で二酸化炭素 CO₂ を出しています。暖房やお風呂、電気機器の使用——、そうした家庭での活動から排出される一日一人あたりの平均 CO₂ 排出量は「約3キロ」です。

ところでこの3キロの CO₂ ,クルマを使えば何分くらいで排出される量なのかご存じでしょうか？答えは、平均的な乗用車の場合で約30分程度。つまり、片道15分の場所にクルマで出かけるだけで、家庭での全ての活動と同じ量の CO₂ を排出してしまうのです。言い換えれば、環境のために一生懸命蛍光灯を消したり暖房を節約しても、少しクルマを使うだけであつという間にその努力が「水の泡」と消えてしまうのです。

京都の様々な行政機関（京都国道、京都府、京都市）は、クルマが地球温暖化に及ぼすこうした重大な影響に着目し、京都の皆さんお一人お一人に「かしこいクルマの使い方」を呼びかけるプロジェクトを進めています。その名も「かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト京都」。私たちの暮らしの中にはどうしてもクルマが必要な時がありますが、必ずしもクルマでなくても良いような移動もたくさんあります。そういう時には、できるだけバスや電車、徒歩や自転車で移動するようにすれば、CO₂ を大きく削減できます。その上、徒歩や自転車で移動が増えれば健康やダイエットにも繋がりますし、クルマの維持費の削減にも繋がります。そうした点にも配慮してもらいながら、クルマの使い方を無理なく、自主的に見直してもらおうとするのが、このプロジェクトの狙いです。

具体的には色々な地域や事業所にて、地域毎に丁寧に作り込んだバスや電車のマップや時刻表を、クルマ利用と環境や健康との関係についてのメッセージと共にお配りし、クルマ利用を見直してもらい取り組みを行っています。場合によっては、複数回のやりとりを通じて、皆さんの CO₂ の排出量や公共交通を使った場合の乗り換え情報を、行政側で「一人一人」について調べてお知らせする等のきめ細かな対応を行っています。また昨年からは、運転免許試験場で、年間20万人以上の免許更新者全員に「かしこいクルマの使い方」を呼びかけるメッセージを京都府内のロードマップと共に配布しています。

こうした取り組みを通じて、既に年間1万トン以上もの CO₂ を、京都の皆さんが「自主的」に削減したことが推計されています。これは、約10キロ四方もの広大な面積（京都御所の約220倍、京都の市街地がすっぽり収まる面積）に植林するスギが年間で吸収する量に匹敵します。

一人一人の小さな変化は、必ず大きな変化に繋がっています。ぜひ皆さんも、まずは少しだけでも、「クルマの使い方」を見直してみたいはいかがでしょうか。

藤井 聡（ふじい さとし） 京都大学卒、同大学助手・助教授、スウェーデンイエテボリ大学客員研究員等を経て、現在、東京工業大学教授。専門は交通計画、公共心理学。「社会的ジレンマの処方箋」等著書多数。平成18年度発言者奨励賞受賞。